

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-281920

(P2002-281920A)

(43) 公開日 平成14年10月2日 (2002.10.2)

(51) IntCl⁷

識別記号

F I

キーワード (参考)

A 2 3 L 1/10

A 2 3 L 1/10

F 3 E 0 3 5

B 6 5 D 85/50

B 6 5 D 85/50

Z 4 B 0 2 3

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2001-86851(P2001-86851)

(22) 出願日 平成13年3月26日 (2001.3.26)

(71) 出願人 501120649

株式会社フリーフォーム

岡山県岡山市丸の内2-12-16

(72) 発明者 三宅 邦夫

岡山県岡山市丸の内2-12-16 株式会社

フリーフォーム内

(74) 代理人 100088993

弁理士 板野 嘉男

Fターム (参考) 3E035 AA10 AB10 BA01 BB03 CA02

DA10

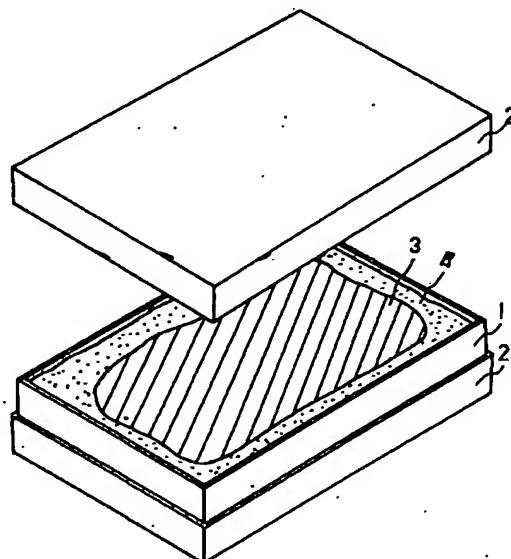
4B023 LE16 LP19

(54) 【発明の名称】 バラ寿司容器及びバラ寿司容器におけるバラ寿司詰め方法。

(57) 【要約】

【課題】 興味の高いバラ寿司容器を提供する。

【解決手段】 すし飯の上下両面に具を特定の象形に似せて配した異なる装飾面を形成したバラ寿司を詰める本体部とこれに取外し可能に被せられる蓋とからなるバラ寿司容器であり、蓋が本体部の上下両面に被せられるものであるとともに、少なくとも一方の蓋を透明にして当該側の装飾面を透視できるようにしたことを特徴とするバラ寿司容器。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 すし飯の上下両面に具を特定の象形に似せて配した異なる装飾面を形成したバラ寿司を詰める本体部とこれに取外し可能に被せられる蓋とからなるバラ寿司容器であり、蓋が本体部の上下両面に被せられるものであるとともに、少なくとも一方の蓋を透明にして当該側の装飾面を透視できるようにしたことを特徴とするバラ寿司容器。

【請求項2】 すし飯の上下両面に具を特定の象形に似せて配した異なる装飾面を形成したバラ寿司を詰める本体部とこれに取外し可能に被せられる蓋とからなるバラ寿司容器であり、蓋の丈を本体部の丈と略同じにするとともに、少なくともいずれか一方を透明にして当該側の装飾面を透視できるようにしたことを特徴とするバラ寿司容器。

【請求項3】 本体部とこれに取外し可能に被せられる蓋とからなるバラ寿司容器にバラ寿司を詰めるに、すし飯の上下両面を具を特定の象形に似せて配した異なる装飾面に形成するとともに、本体部と蓋の少なくとも一方を透明にして当該側の装飾面を透視できるようにしたことを特徴とするバラ寿司容器におけるバラ寿司詰め方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、バラ寿司を詰めるバラ寿司容器及びバラ寿司容器におけるバラ寿司詰め方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】岡山県地方には、ちらし寿司の一種であるバラ寿司と呼ばれる郷土料理がある。昔、藩主が布令した質素倹約例を守るため、このバラ寿司をバラ寿司容器（重箱等）に詰める場合、容器の底に豪華な具を張り、その上にすし飯を載せて見た目では質素なものに見せかけていたとのことである。そして、容器をひっくり返してバラ寿司全体を移し変えると、具が上面に現れて視覚を楽しみますというものである。但し、現在では、そのようなことはないから、最初から具を上面に張って美観を高めている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この具は、海の幸（魚介類）を主としたものであり、これを見ることで食欲が高まるが、従来のものは、ただ単に具を豪華に張っただけのものであった。本発明は、これに工夫を施し、具を特定の象形に似せて配して装飾面を形成する他、すし飯の上下両面にそれぞれ異なる装飾面を形成して一層の興趣を増すものにし、更に、これを視覚で捉えられるようにするとともに、どちらの装飾面からでも食することもできるようにしたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】以上の課題の下、本発明

は、請求項1に記載した、すし飯の上下両面に具を特定の象形に似せて配した異なる装飾面を形成したバラ寿司を詰める本体部とこれに取外し可能に被せられる蓋とからなるバラ寿司容器であり、蓋が本体部の上下両面に被せられるものであるとともに、少なくとも一方の蓋を透明にして当該側の装飾面を透視できるようにしたことを特徴とするバラ寿司容器を提供する。

【0005】本発明に係る容器の蓋は本体部の上下両面に被せられるものであるから、どちらの蓋をとることもできる。又、少なくとも一方の蓋は透明であって当該側の装飾面を透視できるようになっている。従って、透視できる装飾面の側の蓋を取り、その装飾面とすし飯の一部を食したなら、これに蓋をするとともに、本体部を上下ひっくり返し、別の蓋を取ることができる。すると、今まで隠れていた別の装飾面が現れ、非常に興趣の高いものとなる。勿論、両方の蓋とも透明にしてそれぞれの装飾面を透視できるようにしてもよいし、それはそれで興趣の高いものとなる。

【0006】又、本発明は、請求項2に記載した、すし飯の上下両面に具を特定の象形に似せて配した異なる装飾面を形成したバラ寿司を詰める本体部とこれに取外し可能に被せられる蓋とからなるバラ寿司容器であり、蓋の丈を本体部の丈と略同じにするとともに、少なくともいずれか一方を透明にして当該側の装飾面を透視できるようにしたことを特徴とするバラ寿司容器を提供する。

【0007】この容器は、本体部と一つの蓋とからなるものであるが、蓋の丈は本体部の丈とほぼ同じにしてある。これは、本体部側を透明にしてこちら側の装飾面を透視できるようにしていた場合、本体部を蓋に対して取ることになるから、蓋の丈は本体部の丈とほぼ同じなければ、装飾面やすし飯がこぼれ出ることになるからである。この容器を食している途中にひっくり返して別の装飾面を出すことも上記と同じであるが、本体部に対して外嵌めされる蓋側を透明にして最初はこちら側の蓋を取るようになるのが好ましい。勿論、両方を透明にしてそれぞれの装飾面を透視できるようにすることもあるのは上記と同じである。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。図1は本発明の一例を示すバラ寿司容器の斜視図、図2は断面図であるが、この容器は、樹脂等で製作される本体部1とこれに被せる蓋2とからなる。本例の場合、本体部1は上面及び下面が開口した枠体であり、蓋2は上面用と下面用のもの二つからなり、いずれも上から被せることで閉蓋ができるようになっている。本例の場合、本体部1と蓋2の一方は非透明であり、蓋2の他方は透明にしてあるが、両方の蓋2及び本体部1とも透明にしてもよい。

【0009】以上の容器にバラ寿司を詰めるのであるが、本発明では、一方の蓋2を閉蓋してこれを下にして

他方の蓋2を取り、まず魚介類や野菜等の具を特定の象形になるように配して装飾面3を形成する。尚、この装飾面3の形成は適当な型枠等を用いて素早くできるようにしてもよい。次いで装飾面3の上にすし飯を載せてすし飯部4を形成する。最後にすし飯部4の上面に別の象形からなる装飾面3を形成して蓋2を被せれば、容器への詰込み（盛付け）は終了する。

【0010】このような盛付けをしたバラ寿司は、寿司店等で飲食客にそのまま出してもよいし、店頭や駅の売店等で販売してもよい。後者の場合は、持ち歩くことになるから、蓋2が容易に取れないことが必要になる。このため、蓋2の丈を両方の蓋2の下端が当接する位に十分に長いものにしておき、本体部1の壁との摩擦によって自重等によっては外れないようにしておくのが好ましい。更に、これでも不十分であれば、本体部1と蓋2とをテープ等で止め付けてもよいし、適当なロック機構を設けてもよい。

【0011】以上のような盛付けをしたバラ寿司は、少なくとも、一方の装飾面3が外部から透視できるものとなり、興味が増して食欲を高める。この意味で、この象形はその地方の特有の有名な人物像や景色・風景或いは建造物等にすれば、郷土色豊かなものとなる。このバラ寿司を食するには、いずれかの蓋2を取るようになるが、このとき、バラ寿司は本体部1と残った方の蓋2に収容されるから、いずれの蓋2とも、その丈の長さは条件とはならない。

【0012】食し方は自由であるが、例えば、一方の装飾面3とすし飯部4を半分程度食したなら、取った蓋2を被せて容器を上下ひっくり返し、別の蓋2を取れば、異なる装飾面3が現れて来るから、食趣が増すものとなる。このとき、他方の装飾面3が外部から見えないものであれば、蓋2を取ったときにどのような装飾面3が出てくるのかの楽しみが増す。尚、二つの蓋2を透明にして両方の装飾面3とも透視できるようにしてもよいこと

は上述したが、その場合はそれで興味の高いものとなる。本例のように、蓋2が二つあるものによれば、このひっくり返しの際の蓋2の被せと取外しが容易になる利点がある。

【0013】図3は本発明の他の例を示す容器の断面図であるが、本例のものは、蓋2が一つであり、本体部1の一面に蓋2が被せられるものであるが、本体部1又は蓋2の少なくとも一方は透明にして一方の装飾面3は外部から透視できることが条件である。本体部1を下にして蓋2を取れば、本体部1側に装飾面3とすし飯部4とが残り、蓋2を下にして本体部1を取れば、蓋2側に装飾面3とすし飯部4とが残る。この点から、蓋2の丈は本体部1の丈と同じものが要求されるが、こうすれば、蓋2の不用意な外れが防止できる利点もある。勿論、この場合でも、本体部1と蓋2とも透明にして両方の装飾面3が透視できるものであってもよい。

【0014】

【発明の効果】以上、本発明によれば、バラ寿司の具による特定の象形の装飾面が上下両面に現れ、少なくとも、その一方は外部から透視できるから、興味の高いものとなる。この場合、食している途中で容器をひっくり返して別の装飾面を出せば、どのような装飾面が出てくるのかという楽しみがある。又、始めから異なる装飾面を透視できるようにしておいても、それはそれで興味の高いものとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一例を示す容器の斜視図である。

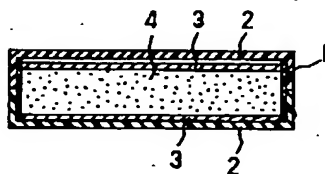
【図2】本発明の一例を示す容器の断面図である。

【図3】本発明の他の一例を示す容器の断面図である。

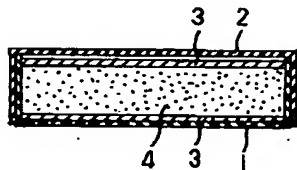
【符号の説明】

- | | |
|---|------|
| 1 | 本体部 |
| 2 | 蓋 |
| 3 | 装飾面 |
| 4 | すし飯部 |

【図2】



【図3】



(4)

特開2002-281920

【図1】

